

東松山ケーブルテレビ株式会社

平成 20 年度 第 1 回番組審議委員会

議事録

平成 21 年 2 月 21 日

制作課 稲葉栄美

日時：平成 21 年 2 月 5 日（木） 10：30～

場所：本社 3 階会議室

出席委員

金子伸行（副会長） 須長桂介 新田悟詞 小林強 亀井幸一 壁谷ヒサ子
鈴木豊士（社長） 中岡俊治（局長） 楠見裕（局次長） 名古屋武司 稲葉栄美

欠席委員

大山裕美

1. 社長挨拶

大変お忙しい中、ご出席いただきまして心より御礼申し上げます。私、昨年 7 月末に代表取締役を拝命いたしました。それまでも役員として東松山ケーブルテレビ立ち上げからおりましたが、社長として審議会を開催するのは今回が初めてとなります。

本来、毎月でも開かれなければならない番組審議会の開催が、年に一度になってしまい申し訳ありませんでした。

また、会長不在のまま審議会を行っているので、新たに決めなければならないと考えています。

出席委員の半数以上が今回初めて審議会に参加するという事で、会社の成り立ちからご説明いたします。開局して 5 年目となります東松山ケーブルテレビは、親会社を入間ケーブルテレビとして 100%の出資です。

入間ケーブルテレビの成り立ちは、青年会議所の考えるまちづくり運動から昭和 58 年に CATV 研究会を作り、昭和 61 年に立ち上げました。設備産業でありますので、伝送路が完成しますと、稼働率ゼロからスタートします。平成 2 年に開局し、「ケーブルテレビとは何か？」の説明から始めていきました。カメラを持って取材に行っても、撮られている側はよくわからないというような状況が続きました。そのような中で、10 年経ってようやく黒字となりました。

平成 15 年に入間市の隣の東京都瑞穂町に、そして平成 16 年に東松山市に開局をしました。今年の 4 月頃には毛呂山町に当初から第三セクターとして出資をいただいて設立する予定となっております。

東松山ケーブルテレビのホームパスは市内約 34,000 世帯のうちの 4 分の 3 (74.4%) 25,294 世帯となりました。一昨年に東京電力の共聴施設が、昨年に電源開発の共聴施設と高坂地区の共聴施設などが移管となり接続世帯数が増えました。しかし、多チャンネルやインターネットの世帯数に関してはまだまだ苦戦を続けている状況です。現在、多チャンネルは 2,500 世帯 (10%)、インターネットは 1,500 世帯 (5.8%) の方が加入しています。まだまだ営業努力をしていかななくてはならないと思っております。特に、最初に開局した第一期、第二期のエリア (箭弓町、新明町、幸町、松葉町、松山町) がまだ 7~8% の加入に留まっているので、委員の皆様からのご意見を参考にさせていただきたいと思っております。今期の売り上げ予測は、2 億 4,000~5,000 万円程度になると思っております。経常損失が 5,000 万程度ありますが、減価償却が 1 億 2,000 万円ですので、キャッシュフローでは、ようやくプラスになったところで、まだまだ厳しい状況です。

昨年は議会中継を開始することができ、ご加入者様からもご好評をいただいております。警察署、消防署、商工会等とも情報提供いただき、非常に良い関係を保っています。地域の公共放送の役割としては少しずつ充実して参りました。スローガンに「市民と共に、地域と共に」を掲げ、明るく豊かで楽しいまちづくりをしていきたいと思っております。新たな事業として、一昨年の末に緊急地震速報を開始しました。これはケーブルでつながっているポイントの地盤情報まで考慮された情報が入ります。震源地が離れていた場合、震度や地盤情報を瞬時に計測して、「〇秒後に震度〇の地震がきます」と具体的な情報を提供することができます。全国放送ですと、広い地域の情報を発信しています。知りたい場所の情報が得られるとは限りませんので、ケーブルテレビにふさわしいサービスと言えます。しかし、まだまだご利用されている方が少ない状態です。このサービスを工場の生産ラインなどに利用すると、自動的にコンピュータ管理を止められ、復旧作業も立ち上げも非常に便利であると聞いております。

今年はワイマックスという 2.5GHz 帯の無線の利用を進めています。局舎屋上と滑川町に 1 基ずつ、送信アンテナを建てました。現在準備中で、春からモニターを募集し、無線でインターネットができる環境にし、地域公共放送を担う会社として意義のあることに使えないかと考えています。

今は、2 年半後に迫ったアナログの停波が問題となっております。現在、東松山ケーブルテレビに加入されている方はアナログが終了してもテレビをご覧いただけます。まだ対策をとられていない方は今のうちからデジタル化しておかないと、停波 1 年前から大変なことになると予測しています。

私どもも、業務を前倒して頑張っていきたいと思っております。

2. 番組審議委員会 副会長挨拶

東松山ケーブルテレビの加入者が増えているということですが、収益的には大変な部分があるということですので、中身のある情報提供をするメディアになっていただければ数字も上がるかと思えます。

東松山市内でも、サービスのエリアが限られています。収益が良いところから進出しているようですが、待っている人たちがいることを考えてエリア拡大を目指してほしいと思います。

3. 審議

前回の審議会で出た意見についての現状の対応状況について、またコミュニティーチャンネルの現況・充実・番組編成について、資料とビデオを使用し、別紙の通りに説明を行いました。

★ 各委員の方からの質問・意見

(壁谷委員) 取材は東松山市内しか行っていないのでしょうか。市内だと、情報に限りがあり、ニュース番組を作るのが大変ではないでしょうか。

(名古屋) 撮影に関しましては、東松山市民の行動範囲内と考えられる比企郡まではお伺いしております。ニュース番組の取材は毎月 50~70 本あります。週 2 回、ひと月 8~10 回の更新ですので、特に問題はありません。

(金子副会長) 東松山市の人が外で活躍する場合、追いかけていくことはありますか。

(鈴木社長) 基本的にはケーブルテレビの取材範囲はケーブルが通っているエリアと考えてください。市民の方が「近隣の街に行って催しを行う場合」に限り、外へ出ることはありますが、東松山市近隣が原則です。

(金子副会長) 有名選手が東松山市から誕生した場合などでも追いかけていかないのでしょうか。

(鈴木社長) キー局で扱うような映像であれば、ケーブルテレビが真似をして撮らなくても良いと考えています。例えば、東松山市出身の有名選手が出た場合、本人の活躍を追うのではなく、見守る家族を取り上げた番組を作るというように、ケーブルテレビでしか得られない情報を提供したいと思っています。

(名古屋課長) 高校野球の場合は、大宮市や熊谷市の球場まで追いかけて放送しております。

(鈴木社長) もし、市内の高校が甲子園に行くようであれば、応援団のバスに同乗して裏

側を撮影する形が良いかと思えます。

(小林委員) ニュースや情報番組のスタジオにポスターを貼っていますが、その申し込みはどの程度あるのでしょうか。東松山市の広報誌でもサークル会員の募集やイベント告知などが多数あります。紙面に限りがありますので、私どもではある程度の数でお断りもしています。

(名古屋) 取材先で「スタジオにポスターを貼ることができる」と伝えていますが、広報に比べると、応募される方は少ないと思えます。毎回の収録に困らない程度の枚数が確保されていますが、まだまだ呼びかけていこうと思えます。

(小林委員) スタジオの壁に貼ってあると、残念ながら小さい文字は見え、募集要項まで確認することはできないように思えます。

(名古屋課長) ポスターの依頼があった場合、テロップで補ったり、依頼者が出演できる時には映像を撮らせていただいたりしております。

(楠見局次長) ポスターに関しましては、昨年新しくなりました東松山駅東口にケーブルテレビのモニターを設置させていただいておりまして、そのスペースにも貼らせていただいております。

(新田委員) 比企 JC では現在会員を増やそうと広報活動を行っています。JC という団体がどういった活動をしているのか、お金を払ってまで加入してどうなるのか、という部分が明確にわかる方が少ないということで、会員が減少傾向にあります。総会や事業などを行う際、取材に来ていただいておりますが、それだけではわからない裏方の活動に関して、ぜひ市民の皆様には知っていただきたいと思っています。そこで、PR を兼ねた、比企 JC の活動を紹介する番組は作っていただけないでしょうか。

(鈴木社長) 以前からお話しをさせていただいておりますが、「JC アワー」という番組を作ってみてはいかがでしょうか。時間はいくらでも割けますが、制作人員が少ないので、そちらで番組を作ってください。ビデオカメラとパソコンがあれば作れますので、ぜひやってみてください。もし挑戦してできないようでしたら、こちらでやり方をお教えします。番組の更新に関しては、最初は不定期でもかまわないと思えます。定期的な更新を目標に番組を企画してみましよう。

(新田委員) 昨年、比企 JC で計画した「比企郷土検定」ですが、その際は JC メンバーが問題を考えました。今年は東松山市の教育委員会にご後援をいただくので、専門的な方に問題を作ってもらい、検定が県内に認められるものになるよう成長させていきたいと思っています。

(金子副会長) きらめき市民大学にそういった学部を作ってもらい、番組を任せてみても

よいと思います。

(須長委員) 市内には、平和資料館や丸木美術館など、文化価値の高い施設があります。そういった場所の紹介し、教育・文化レベルの高い番組を作っていたらいいと思います。施設には、学芸員を目指している学生が来て、説明を聞く時があります。戦争を経験していない世代の人たちがどのように感じたか、若者から見た戦争などについて話を聞くことも大変興味深いと思います。

(名古屋課長) 市内でも昔から映像を制作されている方がいらっしゃいます。戦争について、文化財についてなどテーマは様々です。そういった方々が作った映像をドキュメント形式で放送できるような番組をいずれ作りたいと考えています。

(鈴木社長) ケーブルテレビでは毎年、全国的に映像コンテストを行っています。全国に配信できる高度なコンテンツ作りは今後重要になってきますし、私達でも今後目指していくことです。

(名古屋課長) 毎月東松山市が発行している「広報ひがしまつやま」の映像版という形で、コミュニティーチャンネルで放送することは可能でしょうか。

(小林委員) 広報誌の場合、一度読んでしまうと、もう一度読み返すという行動はあまり取られないと思いますが、テレビをつけておけば情報が入ってくるという受動的な収集の仕方は、これから望まれる方が増えてくると思います。

(金子副会長) 若い方はインターネットを使用して情報を即座に入手しますが、機械が苦手な方や高齢者の中にはパソコンを使えない人もいます。こういった意味で、ケーブルテレビで情報が得られるのは良いです。

(小林委員) 今年、市制55周年の年になります。5周年区切りで、町並みや昔を懐かしむ市民の声などを紹介した冊子と記録映画を作っていますが、今回は今のところ予定していません。職員が撮ることも可能ですが、市内にケーブルテレビがあるのですから、協力して制作できたらと思います。また、これまで作った映像は、市民の皆様にお貸ししていますが、なかなか出番がありません。学校を含めた市の施設には置いてあります。

なかなか年度で作ることはできない状況です。ケーブルテレビでは年間様々などところに行ってお取材をしていますので、年度でまとめた映像を記録として、連携を取ってうまく残せていけたら良いと思います。

(須長委員) 50周年の際、広報委員会というものを作り、私も携わっていました。映像を作る話は、やはり費用がかかるので、作ることを広報委員会で話し合いました。「50周年の節目として欲しい」という意見から、多くの人

に賛同をいただきました。できたものは私もいただいて見ましたが、東松山の住民としては「一度は見てみたい」という気持ちはあると思います。それを5年単位で行うにはお金がかかることであり、困難な部分もあります。短い期間で作成することで、お金をかけずに作成できるのではないのでしょうか。また、できた映像をケーブルテレビの加入者に見ていただくこともできると思います。

(金子副会長) これまで作成された映像は、何本あるのですか。

(小林委員) VHSでの映像も含めると、5年毎に作っているので、現在は10種類くらいあると思います。

(亀井委員) 市民に見ていただかないと非常にもったいない映像だと思います。

(壁谷委員) ケーブルテレビで放送されると、多くの人に見てもらえるので、とても良いと思います。

(亀井委員) ケーブルテレビが開局した際、私は総務課におりました。最初から「番組を1本市に提供する契約ができれば良いですね。」という話しはさせていただいておりました。市内に住んでいる多くの方がケーブルテレビに加入されていますので、「東松山市の広報」としての役割を持つても良いと思います。

以 上